

# 第7期アレルギー大学 新潟 開講記念

## 公開講座「子どものころとからだ」

～アタッチメントとからだの信号～

主催：認定NPO法人 アレルギー支援ネットワーク

共催：新潟県立大学

参加無料!

- 日時：2012年7月21日(土)13:30～16:00 (受付：13:15 開始)
- 場所：新潟県立大学 1313 教室 ■ 受講費 無料(但しお申込が必要です・先着 120 人)
- お申込方法 アレルギー支援ネットワーク ホームページよりお申し込みください。  
アレルギー大学申込メールフォーム(パソコンからでも携帯電話からでも可)  
<http://alle-sien.net/alle-dai/form/form.cgi>

アレルギー大学(新潟)の開講記念として、「子どものころとからだ」を学ぶ講座を行います。食物アレルギーに関する基本講座を受講していただく前に「子どもたちのころとからだ」に今、何が起きているか学びませんか? アレルギー大学「基礎・初級講座」の必須講座としてはもちろんです。どなたでも、また、この講座だけでも無料でご受講いただけます。

### 【 講義の内容 】

#### 斎藤 裕 先生(新潟県立大学人間生活学部 教授)



「母性って、何だと思いますか」と聞かれたら、みなさんは何と答えますか。多くの方が、「母親が自然にわが子をかわいいと思う気持ちのこと」と答えるのではないのでしょうか?では、なぜ「自然にかわいいと思える」のでしょうか?このことは、あたりまえのように説明されていますが、実はよくわかっていないのです。「母性」は、これまで女性が生まれもった本能とも、考えられてきました。しかし、動物園で飼育されたサルが上手く子育てが出来ないという現象と同じように、人間も親や周囲の環境から「母性行動」を獲得していないと本当の子育てはできないのです。では、親子の情愛は、どのような方法で形成されるのでしょうか。どのような援助が必要なのでしょう。本講義では、この点を中心に親子関係の望ましいあり方を考察していきたいと思えます。

#### 沼野 みえ子 先生(新潟県立大学人間生活学部 准教授)



スイスの動物学者アドルフ・ポルトマン(1897～1982)は霊長類の人間が1年の早産をしてしまったと言い、これを「生理的早産」と呼びました。確かに人間の赤ちゃんは、他の動物と比べて自分では何もできない未熟な状態で生まれてきます。しかし、生まれてからは驚くほどの成長を遂げます。未熟であるからこそたくさん可能性を秘めているのであって、この時期の親や周囲の大人たちの役割はとても重要だと言えます。その後も子どもたちは環境からさまざまな影響を受けながら、人間としての独自性を身につけていきます。いま子どもたちにとって望ましい環境はなんなのか、子育ての基本はどうあったらいいのか、日頃のかかわりはどうしたらよいか、などをお伝えしたいと思います。

主催/お問合せ先 認定NPO法人 アレルギー支援ネットワーク <http://www.alle-net.com/>

名古屋市中村区大秋町 2-45-6 tel 052-485-5208 fax03-6893-5801

お問合せメールフォーム <http://alle-sien.net/alle-dai/toi-form/form.cgi>